

3 #7119(救急安心センター事業)の充実

3 #7119(救急安心センター事業)の充実

(1) 背景

① 背景

- 近年、救急出動件数がほぼ一貫して増加し現場到着時間等が延伸している中、限りある搬送資源を緊急性の高い事案に適切に投入するためには、救急車の適正利用を推進していくことが重要である。
- 現在、13地域において事業が開始され、日本の総人口の40.6%が利用可能な状況となっている(平成30年10月1日現在)。
- 一方で、#7119実施団体が参加する連絡会において、**実施団体間で統計項目が異なっており、実施団体間の事業実施状況の相対的比較ができないなどの課題**が確認された。



(2) 検討項目(ねらい)

① 検討内容(ねらい)

#7119救急安心センター事業普及促進アドバイザー及び事務担当者連絡会において、統計項目の検討及び整理を行う。(今年度の#7119担当者及び普及促進アドバイザー連絡会にて意見交換)

- 実施団体の基本情報(例:PRペーパーの更新、未実施団体への事業説明等)
- 実施団体間の相対的評価を行うための項目(例:他団体との比較による事業評価のため)
- 事業効果の定量的な算定を行うための項目(例:これまで示してきた効果を全団体に示すため)
- 救急相談後の判定結果の評価を行うための項目(例:電話相談プロトコルの精度向上のため)
- 効率的な運用の評価を行うための項目(例:各団体が適切な人員配置等を検討する材料)

3 #7119(救急安心センター事業)の充実

② 実施団体における試行

整理した統計項目を基に実施団体で試行し、統計処理に係る負担や既存の統計項目との継続性等の課題の整理及び検討を行う。

(3) #7119(救急安心センター事業)担当者及び普及促進アドバイザー連絡会

<第1回連絡会開催状況と概要>

開催日時：平成30年8月28日(火) 15時30分～17時30分

開催場所：都内会議室

参加団体：札幌市、宮城県、茨城県、東京都、横浜市、新潟県、大阪市、神戸市、奈良県、田辺市、鳥取県、広島市、福岡県（埼玉県欠席）※計13団体25名(内普及促進アドバイザー11名)

議事内容：<消防庁からの情報提供>

- ・平成30年度救急業務のあり方に関する検討会について
- ・#7119の充実全国展開に向けた取組状況について

<意見交換>

- ・#7119の統計項目について
- ・#7119の事業効果について(意見聴取)
- ・オンライン診療の適切な実施に関する指針について

3 #7119(救急安心センター事業)の充実

(4) 今年度の検討状況

① 実施団体の基本情報

事務局提案項目	分類	統計項目
	基礎情報	実施主体、開始日時、対象エリア、運営形態、認知度、利用比 等
	ハード	相談ブース数、電話回線 等
	ソフト	医師(総数・身分・オンコールの状況・助言内容等) 看護師・オペレータ(総数・身分) 配置体制 等
	運用	受付方法、医療機関案内方法、相談記録、使用プロトコル・プロトコルの変更点 等
	検証・研修	検証体制(主体、実施者、形式)、研修体制(主体、実施者、形式)、会議体 等

事業実施に係る体制(医師・看護師等の確保状況、受付時間、相談件数等)を、相対比較可能な形で把握できる。

<把握された情報の活用(イメージ)>

- 未実施団体への普及促進資料(PRペーパー)の改定
- 相談毎統計項目(4頁)とクロスすることで、他団体との相対的評価による、効率的な事業実施体制の維持・向上

(参考)団体から主な意見

意見	対応
他の自治体と比較のため定義を統一しなければならない	全団体共通の定義を整理
プロトコルの変更が多くあるので、記載方法は	記載方法について、検討し整理
利用比の定義が不明確	利用比=入電件数/事業実施エリア人口とする
事業委託する部分(看護師)と自前の部分(相談員)があるため、書きにくい箇所がある	団体内での調整を行い整理

3 #7119(救急安心センター事業)の充実

(4) 今年度の検討状況

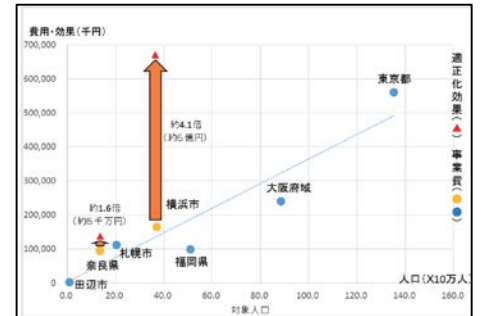
② 相談毎統計項目について

事務局提案項目	①	対応開始日時	⑥	対象者(年代・性別)	⑪	最終判定を受けた対応内容
	②	対応時間	⑦	病院前救急要請	⑫	救急車搬送初診時程度
	③	対応曜日	⑧	使用プロトコル	⑬	医療機関案内科目
	④	分類(救急相談・医療機関案内等)	⑨	プロトコル判定結果	⑭	他機関・他サービス
	⑤	相談者(家族・本人)	⑩	最終判定	⑮	医師への助言要請

相談者の属性(年齢、性別等)と相談日時、相談に用いたプロトコルとその判定結果などを、統一的に把握できる。

<把握された情報の活用(イメージ)>

- プロトコルの精度向上及びより適切なアドバイスの実施
- 需要と供給に応じた効率的な事業実施体制の検討及び応答率の向上
- 休日・夜間の相談状況、判定結果を集計することで、昨年度示した医療面の適正化効果について、全団体に算定することが可能となる。



(参考) 団体からの主な意見

意見	対応
項目の内容によっては今後システムの更新が必要なものもある	次回のシステム更新にあわせた検討を求める
委託する民間コールセンターへ仕様書として示すことができるように検討して欲しい。	今後、全ての団体に統計が取得できるように整理。
目的に翻って考えた場合、どういったデータが必要であるのかを落とし込んでいくべき	各統計項目取得の目的を明確化する
プロトコルについては各団体にバージョンに差がある。突合する軸を持つ必要があるのではないか	プロトコルについて、各団体からデータを取得し検討
コールセンターシステムに差があるため、救急車利用に差が出るケースがあると考えられる	事業効果に関わる部分となるため、⑪「最終判定を受けた対応内容」で把握する

3 #7119(救急安心センター事業)の充実

(4) 今年度の検討

③ 実施団体における試行

実施団体における統計処理に係る負担や既存の統計項目との継続性等の課題の整理を行うために、新しい統計項目によるデータ取得を試行。

- 試行期間 平成30年11月中旬～下旬の土日を含む7日間
- 試行団体 上記の期間に事業を行っている13団体
- 内容
 - ① 相談毎に、新しい統計項目によるデータを取得(統計項目の整合性を確認)
 - ② データ取得にかかる事務負担等についての意見収集
- 結果 各団体からの意見を取りまとめ中。取りまとめ結果を第2回連絡会で調整し、整理する予定

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
#7119(救急安心センター事業)の充実	救急業務のあり方に関する検討会(第1回)								
		第1回連絡会	統計項目の検討		実施団体試行による課題の抽出				
						救急業務のあり方に関する検討会(第2回)			
						第2回連絡会			
								救急業務のあり方に関する検討会(第3回)	
									報告書発出
									情報提供

3 #7119(救急安心センター事業)の充実

(4) 今年度の検討状況

④ その他(今後の連絡会での検討予定事項)

現在把握している効果

<消防面の効果>

- 潜在的な重症者を発見し救護
- 軽症者の割合の減少
- 不急の救急出動の抑制

<医療面の効果>

- 医療機関における救急相談数の抑止や#7119を紹介し病院業務に専念
- 医療機関における時間外受付患者数が減少
- 医療費の適正化効果が見込まれる

<その他>

- 119番通報される緊急通報以外の件数が減少

事業効果として各団体が実感している内容

- ・市内のウォークインで行く一次救急医療機関が足りないといった医療体制の課題が見えてきた。
- ・二次、三次救急医療機関に行っていた患者が、適正に一次医療機関を選択できている実感がある。
- ・都市部以外でも119番の件数が減っているという効果を感じている。

など

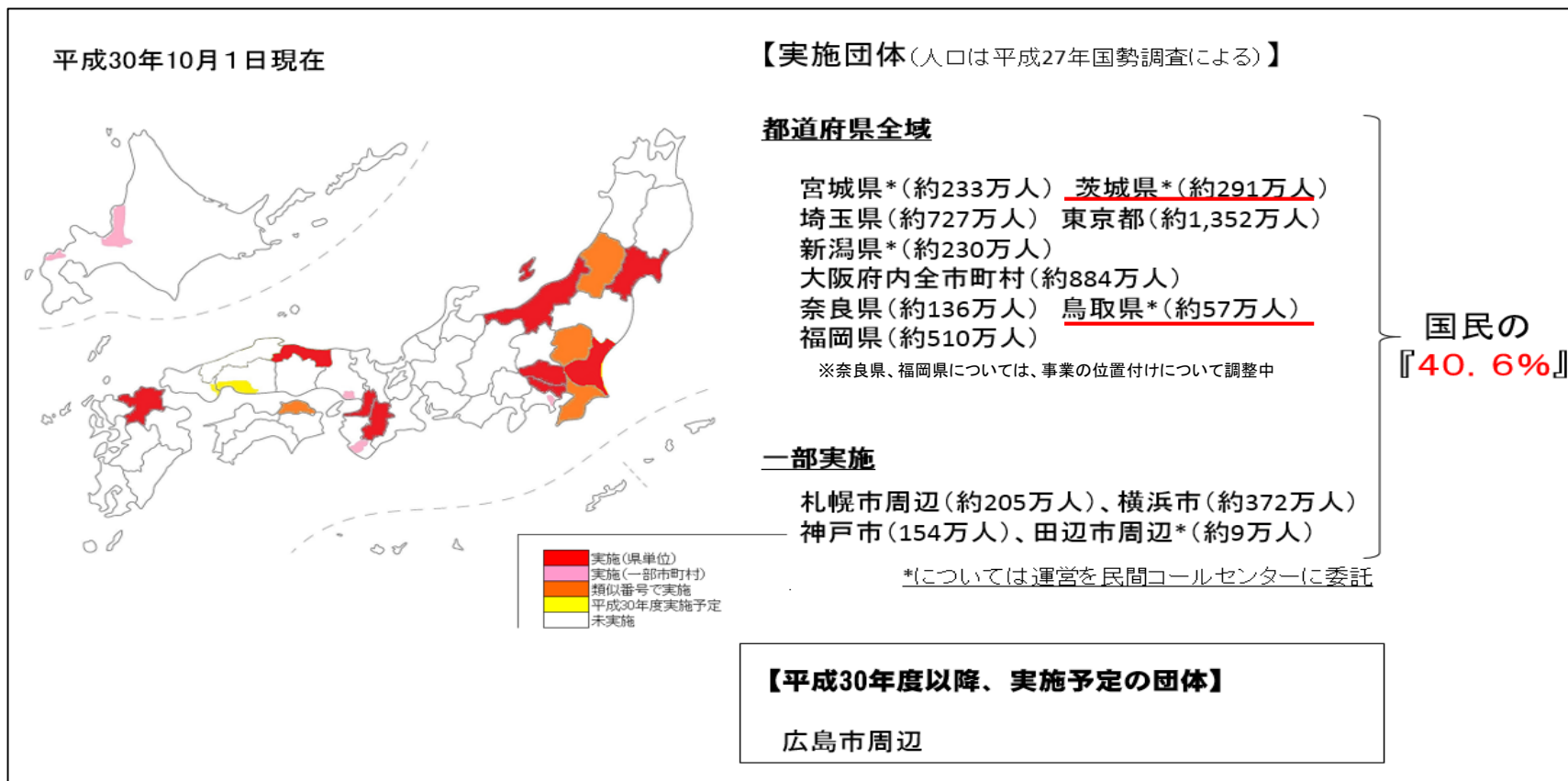
今後

実感されている事業効果について、来年度以降に収集されたデータの活用などにより、定量的に把握、整理する方法を連絡会を通じて検討する。

3 #7119(救急安心センター事業)の充実

(5) 参考

① 最新の普及状況



② 普及に向けた取組

- 未実施地域への個別訪問の実施(平成30年12月7日までに6道府県、33市を訪問)
- #7119救急安心センター事業普及促進アドバイザー派遣